

東京外かく環状道路（関越～東名） 環境モニタリング調査（大気質・粉じん等）の結果について（お知らせ）

中央 JCT・東八道路 IC（仮称）周辺 大気質・粉じん等調査

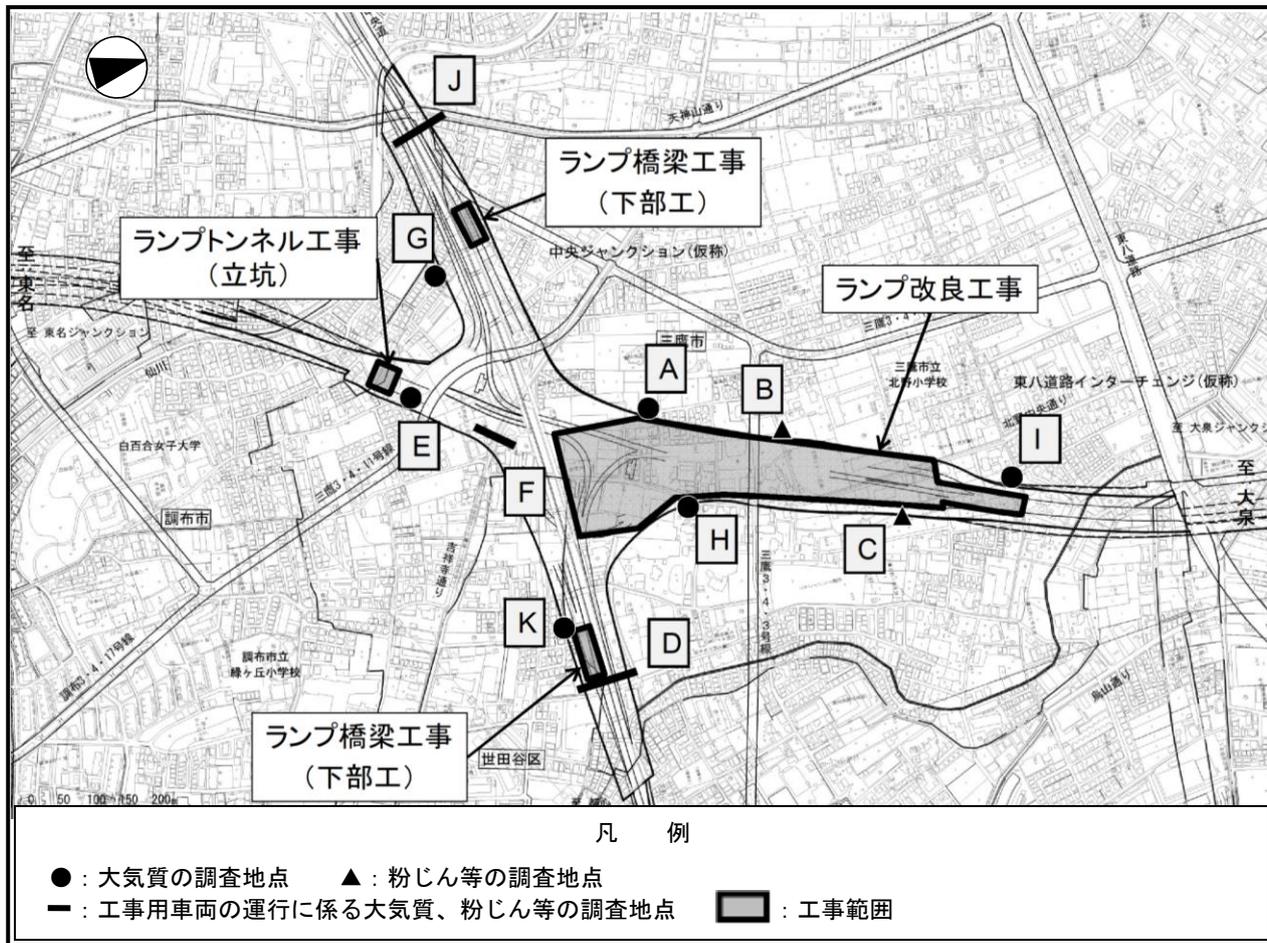
令和 2 年 6 月～令和 2 年 8 月に実施した大気質調査の結果についてお知らせします。

◆調査期間

夏季

- 大気質：令和 2 年 6 月 8 日（月）～6 月 14 日（日）（7 日間）
 令和 2 年 6 月 11 日（木）～6 月 17 日（水）（7 日間）
 令和 2 年 6 月 18 日（木）～6 月 24 日（水）（7 日間）
 令和 2 年 7 月 10 日（金）～7 月 16 日（木）（7 日間）
 令和 2 年 7 月 13 日（月）～7 月 19 日（日）（7 日間）
 令和 2 年 7 月 23 日（木）～7 月 29 日（水）（7 日間）
 令和 2 年 7 月 29 日（水）～8 月 4 日（火）（7 日間）
- 粉じん等：令和 2 年 6 月 1 日（月）～7 月 1 日（水）（1 ヶ月間）
 令和 2 年 6 月 19 日（金）～7 月 19 日（日）（1 ヶ月間）
 令和 2 年 7 月 6 日（月）～8 月 5 日（水）（1 ヶ月間）
 令和 2 年 7 月 8 日（水）～8 月 7 日（金）（1 ヶ月間）

◆調査位置図



◆問い合わせ

担当窓口：国土交通省関東地方整備局 東京外かく環状国道事務所 計画課
 電話番号：0120-34-1491（外環専用フリーダイヤル 平日 9：15～18：00）

◆調査結果

○建設機械の稼働に係る大気質【二酸化窒素（NO₂）、浮遊粒子状物質（SPM）】

- ・二酸化窒素（NO₂）については、いずれも環境基準を下回る結果となっています。
- ・浮遊粒子状物質（SPM）については、1日平均値、1時間値ともにいずれも環境基準を下回る結果となっています。

調査時期	調査日	A			調査日	E		
		NO ₂ (ppm)	SPM (mg/m ³)			NO ₂ (ppm)	SPM (mg/m ³)	
		1日 平均値	1日 平均値	1時間値 の最大値		1日 平均値	1日 平均値	1時間値 の最大値
夏季	6月18日	0.017	0.022	0.031	6月11日	0.008	0.012	0.023
	6月19日	0.009	0.012	0.021	6月12日	0.012	0.015	0.020
	6月20日	0.009	0.012	0.016	6月13日	0.019	0.012	0.016
	6月21日	0.007	0.016	0.021	6月14日	0.017	0.018	0.027
	6月22日	0.007	0.015	0.024	6月15日	0.019	0.023	0.040
	6月23日	0.013	0.013	0.023	6月16日	0.010	0.022	0.036
	6月24日	0.017	0.020	0.027	6月17日	0.012	0.018	0.027
	期間内平均	0.011	0.016	—	期間内平均	0.014	0.017	—

調査時期	調査日	H			調査日	I		
		NO ₂ (ppm)	SPM (mg/m ³)			NO ₂ (ppm)	SPM (mg/m ³)	
		1日 平均値	1日 平均値	1時間値 の最大値		1日 平均値	1日 平均値	1時間値 の最大値
夏季	7月23日	0.012	0.013	0.032	7月13日	0.009	0.005	0.019
	7月24日	0.016	0.030	0.060	7月14日	0.012	0.008	0.015
	7月25日	0.014	0.021	0.043	7月15日	0.010	0.009	0.017
	7月26日	0.006	0.010	0.020	7月16日	0.011	0.011	0.019
	7月27日	0.013	0.012	0.023	7月17日	0.011	0.011	0.017
	7月28日	0.017	0.020	0.038	7月18日	0.013	0.009	0.016
	7月29日	0.009	0.010	0.026	7月19日	0.007	0.013	0.019
	期間内平均	0.012	0.017	—	期間内平均	0.010	0.009	—

※ 調査地点Gの周辺では、6月～8月は工事が行われなかったため、調査を実施していません。

調査時期	調査日	K		
		NO ₂ (ppm)	SPM (mg/m ³)	
		1日 平均値	1日 平均値	1時間値 の最大値
夏季	6月18日	0.013	0.019	0.028
	6月19日	0.013	0.013	0.025
	6月20日	0.007	0.012	0.023
	6月21日	0.007	0.014	0.022
	6月22日	0.008	0.014	0.027
	6月23日	0.009	0.014	0.026
	6月24日	0.013	0.017	0.027
	期間内平均	0.010	0.015	—

○工事用車両の運行に係る大気質【二酸化窒素（NO₂）、浮遊粒子状物質（SPM）】

- 二酸化窒素（NO₂）については、いずれも環境基準を下回る結果となっています。
- 浮遊粒子状物質（SPM）については、1日平均値、1時間値ともにいずれも環境基準を下回る結果となっています。

調査時期	調査日	D			調査日	F		
		NO ₂ (ppm)	SPM (mg/m ³)			NO ₂ (ppm)	SPM (mg/m ³)	
			1日 平均値	1日 平均値			1時間値 の最大値	1日 平均値
夏季	6月8日	0.010	0.021	0.034	7月10日	0.012	0.020	0.038
	6月9日	0.010	0.023	0.029	7月11日	0.011	0.023	0.037
	6月10日	0.007	0.013	0.028	7月12日	0.007	0.017	0.035
	6月11日	0.005	0.011	0.017	7月13日	0.015	0.014	0.037
	6月12日	0.008	0.014	0.022	7月14日	0.018	0.014	0.025
	6月13日	0.012	0.013	0.020	7月15日	0.017	0.012	0.028
	6月14日	0.014	0.020	0.027	7月16日	0.017	0.012	0.030
	期間内平均	0.009	0.016	—	期間内平均	0.014	0.016	—

調査時期	調査日	J		
		NO ₂ (ppm)	SPM (mg/m ³)	
			1日 平均値	1日 平均値
夏季	7月29日	0.013	0.011	0.035
	7月30日	0.014	0.015	0.024
	7月31日	0.016	0.026	0.051
	8月1日	0.011	0.014	0.051
	8月2日	0.007	0.014	0.022
	8月3日	0.011	0.022	0.048
	8月4日	0.007	0.019	0.030
	期間内平均	0.011	0.017	—

参考

◆環境基準

二酸化窒素：1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。

浮遊粒子状物質：1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m³以下であること。

※環境基準との評価は、『道路環境影響評価の技術手法』に基づいて、1年間の測定を通じて得られた1日平均値のうち、低い方から数えて98%目（若しくは高い方から数えて2%目）にあたる値を環境基準と比較することにより行います。

○建設機械の稼働に係る粉じん等

- 粉じん等（降下ばいじん量）については、いずれも参考値を下回る結果となっています。

	調査時期	B	C
降下ばいじん量 (t/km ² /月)	夏季	2.5	2.5

○工事用車両の運行に係る粉じん等

- 粉じん等（降下ばいじん量）については、いずれも参考値を下回る結果となっています。

	調査時期	D	F	J
降下ばいじん量 (t/km ² /月)	夏季	1.9	2.4	2.8

参考

◆環境基準

降下ばいじん量に環境基準はありません。

◆参考値

降下ばいじん量：20t/km²/月以下

※環境を保全する上での降下ばいじん量は、スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標*を参考とした 20t/km²/月が目安と考えられます。（「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」より引用）

なお、計測されるばいじん量は建設機械以外から発生するものも含まれるため、環境影響評価では、上記基準を達成するよう、建設機械の稼働の寄与分を 10t/km²/月以下とするよう評価を行っています。

* 「スパイクタイヤ粉じんの発生の防止に関する法律の施行について」（平成2年1月3日、環大自第84号）